

文化財 やまと

岐阜県文化財保護協会大和村支部発行



七鈴五獣鏡

大和村の天然記念物の内、樹木については、昨年末指定のものを加えて、現在一三件である。その所属からいえば、八件までが神社関係である。

神社の天然記念物では、明建神社（牧）・金劔神社（剣）・白山神社（口神路）・諏訪神社（小間見）の四社が社叢（しゃそう）として指定され、神社の森全体が保護されることになった。これらの神社には巨木が多く、樹種も多いため、このような形で保護されるのは、いちばん望ましい方法である。

個々の樹木について、主なものを挙げてみるとまず第一に奥大間見白山神社の大スギである。目通り周囲八・二〇m、樹高四四・五mの堂々たる巨木で、樹齢八〇〇年と推定され、村内最大である。ただ惜しいことに、大正年間の台風で一方の枝が折れて樹幹の一部が枯れている。これ以上の腐蝕は防ぎたいものである。

これに並ぶものとして、明建神社の帰りスギ・神迎えスギと呼ばれる二本のスギがある。樹令はどちらも七〇〇年と推定される。サ

大和村の

天然記念物について

支部長 野田直治

クラ並木の両端にあるので、だれの目にもつきやすい。その次ぎは口神路白山神社の「六本ヒノキ」で、樹齢四〇〇〜五〇〇年と推定され、樹勢は今もなお盛んである。六本ヒノキとは、いつの時代にそれが名づけたか知らないが、実際には幹が九本に分れているので、九本ヒノキと呼びたいところである。

これらの外、金劔神社のエノキ・諏訪神社のモミ・七代天神社（

うではなかったと思われる。古代人は、神は森や林を住みかとすると考えた。また神社を建てることになかった太古の時代は、山や森を神の居所として祭り、あるいは神木を立てて、それを祭つたりしたが、これはつまり神が樹木に宿ると信じたためである。現在でも、境内の特定の木を神木としてしめ縄を張り、尊敬する風習が残っているが、やはり古代から伝えた思想の現れであろう。こうした伝統的な思想や風習が神社に大木を育てる要因になったと思われる。

次に、個人所有の記念物としては、古道細川利雄氏の宅地にあるヒイラギ（四株）などがある。

この種の木としては大木で、樹齢四〇〇〜五〇〇年と推定され、同家の歴史の古さがしのばれる。

領家のモミジは、西俣村（下栗）の長（おさ）百姓森作右衛門家の墓地にある古木である。根廻り七・五〇mで墓標の台石をだき

抱えている。樹齢はおよそ四〇〇年、春秋の紅葉が美しい。「領家」は家号のように見えるけれども、元来これは中世庄園制における庄園領主を指したもので、由緒あることばである。森作右衛門の名が初めて文献に見えるのは、宝暦五年の駕籠訴の記録であって、彼は江戸訴訟を側面から支援したらしく、また明治初年の行政改革で大区に分けられたとき、領家の森佐平は第六小区の副区長として、剣の野田平次郎らと共に、郡上の政界に活躍した。その後、領家は没落して、広大な屋敷跡は水田と化し、栗栗川対岸の墓地も荒れた。ただモミジだけは昔のまゝ、今も健在である。世は移り人は替つたけれども、モミジは四〇〇年の命を生き続けている。そして、かつて繁栄した大家がここにあって、唯一の貴重なあかしとして、存在しているわけである。

最後に、増田家のツツジ四株は数百年の樹齢を思わせる見事なただずまいであるから、花の盛りにはぜひ觀賞していただきたい。つつじ濃し雲の高さを降りくれば

野見山朱鳥

仏像の印相について

畑中浄園

宣化天皇の三年（五三八）百濟

の聖明王が仏像と經典を献上したのが日本へ仏教が公伝した始めといわれている。（一説には五五二欽明天皇の十三年）以来日本の仏教は仏像と共に発展したといっても過言でない程幾多の仏像が造られてきた。これらの仏像を大別すると、仏・菩薩・明王・天部の四つに分類できることはすでに周知の通りである。これらの諸像の中には、両手または片手を特定にかたどったものがある。これを印相という。これは仏・菩薩などの悟りや誓願の内容を表現するものである（図B）密印といい、略して単に印ともいう。この印相の基本的な形は如来像の上に見ることができ、薬師如来像の薬壺は例外として、手に何も持たず印相だけでその如来の名を示すのが通例である。しかし平安朝以前すなわち密教伝来以前の如来像には同じ印相でも仏名の異なるものがある。次に基本的な印相をあげてみると

1. 施無畏印と与願印

施無畏印というのは肘を曲げて右手をあげ五指をそろえて外に向ける相で仏が衆生に畏れをなくさせる意である。与願印



2. 法界定印

両手を重ねて膝の上におき、両方の大指（親指）で楕円形をつくるように大指の先を合わせる形である（図B）禅宗系の寺院には釈迦の禪定相をあらわすためにこの印相の釈迦像が多い（さきに拝観した美並村林広院のご本尊もこの印相）また、胎藏界の大日如来もこの印相である。

3. 転法輪印（説法印）

釈迦の説法教化の姿をあらわしたもので、左手を中にむけ大指と中指の先を合わせ、右手を外にむけて大指と頭指（人さし指）の先

を合わせて、左手のそれにそえる形である（図C）インドの釈迦像にはこの姿が多いというが法隆寺壁面の阿弥陀如来にもこの印相が見られる。



4. 智拳印

これは金剛界大日如来の印相で胸の前にあげた左拳の頭指を右拳で握る形である（図D）大日如来というのは太陽をさらに上まわる大光明をそなたた仏といわれ、大日経と金剛頂経の教主である。大日経の経旨を図標化したのが胎藏界曼荼羅で如来の理性を表現し、その中心となる大日如来の印相がさきにもべた法界定印である。

5. 阿弥陀如来の九品印

白鳳・天平の阿弥陀像には通仏相の施無畏・与願の印や、転法輪印の像もあるが、末法思想がおこり浄土教が隆盛となる平安中期から鎌倉、さらに後代にかけて九品の弥陀像が造像されるようになった。これは観無量寿経の中に九品往生ということが説かれており往生人の信心の浅深などにより九種



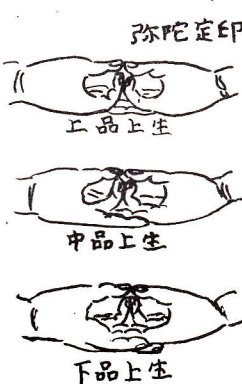
来迎印



説法印



E 弥陀九品印



の別があるとせられ、これを救済する阿弥陀の相にも九種の相があり、それは上中下の三生にさらにその各に上中下の三品の相があつて合わせて九品というのである。

一上生印（弥陀の定印）さきにてのべた釈迦の法界定印とよく似てはいるが、違ふ所は重ねた両手の頭指をまげて大指の先と合わせる上品上生印、同じく大指と中指の先を合わせる中品上生印、また大指と無名指（薬指）の先を合わせる下品上生印とがある（図四）宇治平等院や日野法界寺の弥陀がこの印相である。

ロ中生印（説法印）両腕の肘をまげて手を胸のあたりにあげ弥陀説法の相をあらわしたもので、これも指の組み方で図の如く三相に分れる。当麻寺の当麻曼茶羅の弥陀がこの印相である。

ハ下生印（来迎印）図示の如くこれも上品下生・中品下生・下品下生の三品に分かれる。私達の仏壇のご本尊はこの来迎印の三品のうちのどれかである。

なお、仏像にはこの外特殊な印もあつてかきられた紙面ではのべつくすことができないので、ごく一般的なものをのみをあげた。

石徹白文化財 見学記

有代信吾

七月二日、朝八時半一行三八名はバスと乗用車で石徹白に向う。夏の日ざしが若葉に映える標高九六〇mの檜峠を越えると、間もなく、むかしは秘境といわれた石徹白である。

上村喜平さんの案内で大師堂に参拝、こゝは明治初年の廃仏毀釈の時に、それまで中居神社に祀つてあつた仏像をここに御堂を建て移されたもの、高い石段もその時に、造られたもので、夥しい石も



石徹白杉の下にて

村人全員の手で運び上げられたと聞き、感慨深く一段一段を上る。こゝには多くの指定文化財が安置されているが、中でも金色燦然として中央に坐して見えるのが国指定の重要文化財の虚空蔵菩薩である。数年来奈良へ修理の旅に出

ておられて、このごろお戻りになったばかりとか、すっかりきれいに化粧されている。柔和な頬のふくらみ、豊かな胸、世事に没頭している私共を憐み給うかのよう

で、さすが鎌倉時代の名仏師の作と感銘深く礼拝した。傍には尊皇王院ゆかりの花立があり、懐しく手に取って見させていただいた。威徳寺では、石徹白徳郎先生から当地の歴史についてお話を聞く。



早春

有代喜平

篠脇の雪解走る堀の跡
連歌の碑指でなぞりて春寒し
大杉の花を抱えし舍利の幹
田空仏の笑とむきあふ春浅し

山田昌枝

背のぬくし藁塚不破の関近く
白き鳥浮べて秋の古戦場
草紅葉笹尾山へと道折れて
シリア展出でて落葉のしめる道

明建

有代いせ

篠脇の堀の形に雪残る
祭囃子サンヨシボンボ筋する
祭獅子入日に狂ふ婦り杉
祭獅子去りし大門蟬しくれ

古戦場に

立って

山田 良



(関ヶ原古戦場にて)

さるほどにわれわれ大和村文化財保護協会員は、晩秋の一日、古戦場見学のため関ヶ原町を訪れた。まず同町役場で、一通りの説明を受け、昼食後、同町社教主事宇野先生の御案内で、現地を巡って見学した。現地に立って、宇野先生

のご説明を聞いてみると、われわれもまた従軍の兵士として、実戦の場にいるような気がしてきた。時は慶長五年九月十五日の早朝、当日の布陣の状況から見れば、初め西軍は優位に立っていたのだがしかしその中には傍觀軍もあり、反応軍もありで、結果は史実の示す通り西軍の惨敗に終わったわけである。

勝敗は別としても、全軍一体となつて、堂々と最後まで戦つたのなら、後世のわれわれの気持ちもスツキリするのだが、昔も今も人の心には迷いがあるもので、信を置き難いものだなあと、つくづく感じたことである。

それはともかく、さ程広くもないこの土地で、よくも三〇有餘万の大軍が集結して、天下分け目の大決戦をしたものだと思われる。現にわれわれが居る土地の、あの山には何某の陣、この森は何某の陣、あの凹地は徳川の本陣、この山は石田の本陣と、たがいに指呼の間において、戦鬪を交え、必死の攻防が行なわれたのだ。しかも敵味方共に同胞であり、中には親子、兄弟が敵対する場面もあったであろう。いかに戦国の世と

はいえ凄惨を極めた戦いであつた。また、宇野先生もいわれたように、この戦いは表面は男の戦いであつたが、実は女性の戦いでもあり、また尾張、三河対近江国との戦いでもあり、また貫祿の戦いでもあつた。すなわち、徳川の百万石に対し佐和山十八万石の戦いでもあつた。いうなれば東西二大勢力の命運をかけた権力斗争であつた。そしてそれは日本の歴史を左右する世紀の大斗争であつたわけである。それにしても、いまこの地に來て、われわれが切に思うのは、この斗争の犠牲になつて空しく戦場の露と消えた多くの無名戦士たちの事である。彼らとてもそれぞれに大なり小なり功名の夢はあつたはずだ。故郷には親もあれば妻子もあつたはずだ。しかし一切は夢と消えて空しくむくろは泥土にまみれてしまつたのだ。——

そう思うと、吹いて來る晩秋の風は彼らの慟哭とも聞こえてきて身にしみるようであつた。夏草やつはものどもが夢の跡——季節は違ふけれども、われわれもまた芭蕉と同じ悲しみに誘われて夢と消えた「つわものども」のために冥福を祈らないではいられなかつた。



短歌・俳句

池田 弘

篠脇城跡にて

押しよする朝倉の軍退けしとう
白の目壕につつじ咲き初む

幾百の血の沁み入りし白目壕つ
つつじ紅に咲き初めにけり

明建神社にて

歌人の城主も賞で給いしとう桜
並木は花盛りなり

奈良博物館見学

慈眼にて御仏吾を見つめ給り新
緑の古都に心安けし

関ヶ原古戦場にて

首塚の風背にしみる枯野かな
大畑遺蹟

繩文人住みし土なり田を植うる

番所跡

馬酔木咲く時に古りし石畳
白晒れて御堂の柱冴え返る

草の芽を踏みてめぐれり古墳跡
口承のみ番所の跡のつくしんぼ

有代信濁子

下広す系乃

田空弘

雉鳴いて夕日すぐ落つ城の跡

田空弘訪ねし里の梅の花

草葺の家瀬川の春の水

桜並木昔のみちを歩みけり

土松新逸

篠脇城跡

老の足まだ確かなる幸せを踏み

踏み登る篠脇の山

城跡に酌みつつ語る遠き祖の戦

いのことにたかぶりにつつ

この堀に遠祖たちが血を流しい

のちをかけて城を守りし

篠脇の山に真白く咲きいでて辛

夷の花は陽にひかるなり

いち早くこぼし明るく咲きいで

て篠脇山の春深みゆく

落葉ふみふみつつ登る篠脇の古

城の跡に陽はあたたかく

雑木林に透る冬の陽寂として古

城の跡に語ることなく

雑木林を吹き通り來し冬の風古

城の跡を音立てて過ぐ

大和村史跡

保存管理報告

篠脇城跡

- 一 保存会名 篠脇文化顕彰会
- 二 指定区分 岐阜県指定史跡
- 三 所在地 大和村牧志ノ脇
- 四 会長名 粟飯原常城
- 五 会員数 七五名
- 六 五三年中主なる行事

- 1 役員会 三回、2 総会 一回
- 2 役員会 三回、2 総会 一回
- 3 作業 会員総出にて四月、八月の二回草刈

七その他

篠脇城とかかわりのある尊星王院跡といわれているところに尊星王院供養塔を建てる計画で、目下その準備中である。

- ### 阿千葉城跡
- 一 保存会名 阿千葉城跡保存会
 - 二 指定区分 大和村指定史跡
 - 三 所在地 大和村剣桃ヶ洞
 - 四 会長名 畑中定夫
 - 五 会員数 九八名
 - 六 五三年中主なる行事

七その他

九月三日、区民総出にて午前中草刈、道修理等の作業をなし、午后は赤歩岐祭を実施した。東氏郡上入部最初の居城であったこの阿千葉城跡であることを会員一同よく理解して、今後なお一層の保存管理に当らんとするものである。

松尾城跡

- 一 保存会名 松尾城跡保存会
- 二 指定区分 大和村指定史跡
- 三 所在地 大和村大間見字城山
- 四 会長名 野田茂
- 五 会員数 四〇名
- 六 五三年中主なる行事

- 1 役員会 四回、2 作業一回
- 3 総会 一回
- 4 無縁仏追弔会 一回

七感想

幻の城と言われていたこの城跡も四八年夏村史野田編集委員長さんによって、白鳥町長滝神社でこの城を裏付ける古文書の発見された事によって、大きくクローズアップされたのである。剣地区で国道より新設道路を口

大間見へ約二二〇〇米程東上して右の大間見川を越して高台に登る。台上より南を見れば剣及名皿部地区が一望、北を見れば大間見の奥まで一目に眺めうる足下には大間見川が流れ東洞よりは富士子谷が合流し、尚裏山の尾根には馬街道があって、明建神社に通ずる事が出来る。この地に篠脇城の出先城があったのも当然のことと思える。この城跡保存について、山本・山下両地主の方が無償貸与してくれた事に大きく感謝し、これに答えて我保存会は先日来場された林春樹先生の調査結果を待つて一層この城跡保存に万全を期したいと念じて居る会員一同である。

木越城跡

- 一 保存会名 木越城跡保存会
- 二 指定区分 大和村指定史跡
- 三 所在地 大和村島(場皿)
- 四 会長名 直井篤美
- 五 会員数 一七名
- 六 五三年中主なる行事

四月三日会員総出にて本丸跡及通路の整備を行行。

七その他 会員一同、中世において遠藤氏の居城であったこの城跡の意義を考え、今後一層この城跡の保存に努めようとしている。



美並村の

円空仏

木島 泉

文化財保護協会のひとつの魅力は、何と云っても一人二人で行って見る事のできない宝物を見せたいと念じて居る会員一同である。

今回は美並村へ円空仏を訪れる機会を得た。その以前に円空さんの予備知識を得たのと、丁度仏教美術クラブが始められていたので河合俊次先生にお願いして円空仏の話も聞かせていただいていたので、その会に出席していた人は皆一様に期待にみちて参加した事はいうまでもない。幸いお天気にもめぐまれ、少し寒くはあったが、早春の景色を心ゆくまで楽しみ乍ら車中の人とな



木越城跡

った。バス一台に少し余る人数であったために私は乗用車の方へ乗せて頂いたが、その中でもいろいろ勉強させられる会話がはずんだ。林広院では、殊に抱えるほどの大きな円空仏があって、その大胆な鑿の使い方やデザインの斬新さに感動を新しくした。頭上に竜が彫られているので竜王信女とも薬壺を持っているので薬師如来ともいわれているという。おもしろいのは、子供たちが川でこの仏像といっしょに泳いで遊んだとのこと

で、その折りの傷あとが処所に見られることである。燦火にもほうり込まれたのだろうか、焦げあともある。尺ばかりの丈の座仏の面ざしのふくよかな笑まいは、それその方角によって微妙な翳りをみせる。小さな木葉仏たちは、女の子たちが手頃な人形あそびでもしそうな心易さである。

林広院を出て乗性寺へ。そこは大和村にはゆかりの深い東家の墓所。もう大分以前に一度訪れたときは、歌人として名高い常縁公の絵像をみてそのあまりの貧相さがっかりしていたので見たいとは思わなかった。歌だけであつたらば、業平朝臣かとも三浦友和とも勝手に想像できるといふものである。

星宮から熊野神社へ。懸仏たちの唇の紅やいくつかの円空仏、又円空さんの真筆なども見せて頂いた。聞く所によるとふだんは仲々見せては頂けない庫も開けて下さったとか。美並村の教育委員会の方が一日中、車でついて来て案内を下さつたし、美並の村史編集に携わっていられる大和中学の池田先生の懇切な解説があつて、充実した日程であつた。

大和村における 指定文化財

(昭和五三年四月以降
指定分)

- (一)名称 (二)員数 (三)所在地
(四)指定年月日

大和村指定史跡

- (一)木越城跡
(二)約四七アール
(三)島(場皿)
(四)昭和五三年六月五日

大和村指定天然記念物

- (一)金劔神社の社叢
(二)約三〇アール
(三)剣三二五ノ一番地
(四)昭和五三年二月二五日
- ◇
- (一)口神路白山神社の社叢
(二)約一アール
(三)神路五四九番地
(四)昭和五三年二月二五日
- ◇
- (一)諏訪神社の社叢
(二)約一三アール

- (三)小間見二五〇・二五一・二七九番地
(四)昭和五三年二月二五日

- ◇
- (一)口大間見白山神社のトネリコ
(二)一本
(三)大間見八六三ノ一番地
(四)昭和五三年二月二五日

- ◇
- (一)奥大間見白山神社の大杉
(二)二本
(三)大間見一八二九番地
(四)昭和五三年二月二五日

- ◇
- (一)南宮神社のモミジ
(二)一本
(三)万場二七三ノ一番地
(四)昭和五三年二月二五日

- ◇
- (一)名血部白山神社のケヤキ
(二)一本
(三)名血部一三八〇番地
(四)昭和五三年二月二五日

- ◇
- (一)七大天神社の鳥居杉
(二)一本
(三)島四四九五番地(野口)
(四)昭和五三年二月二五日

- ◇
- (一)旧西川役場跡のエノキ

- (一)領家のモミジ
(二)一本
(三)栗果六七九ノ四番地
(四)昭和五三年二月二五日

- ◇
- (一)細川家のヒイラギ
(二)一本
(三)古道一〇二三番地
(四)昭和五三年二月二五日

- ◇
- (一)増田家のツツジ
(二)四本
(三)栗果一九七二番地
(四)昭和五三年二月二五日

- ◇
- (一)大和村指定文化財件数
(昭和五四年三月現在)

- 国指定天然記念物 一

- 県指定史跡 一

- 県指定重要文化財 三

- 村指定史跡 一

- 村指定重要文化財 八

- 村指定天然記念物 九

領家のモミジ



河内にて

木島 泉

愛憎を^な縋ひてほぐるる牡丹の芽
花なずな憶ひに辿りある歩幅
鮮やかは雉翔ちしのみ峠越え
耳鳴りのように風泣き山椿
すぐ揺らぐ心に聴き木の芽風

昭和五三年度

事業報告

四月八日
○支部総会

於村民センター 三六名出席
昭和五二年度事業報告および収支決算承認、昭和五三年度事業計画および収支予算承認、規約の一部改正、役員選出、文化財収蔵庫早期建設要望書決議(十月提出)

○記念講演「文化財の見方、考え方」吉岡勲先生

四月二三日
○現地研修

篠脇城跡見学
参加者
日置照郎、高橋明、池田憲三、畑中定夫、小池久江、野田直治、野田茂、日置繁、池田弘、井俣初枝、寛明代、木島泉、鷺見おと、直井すゞ江、矢野原幸子、島崎英二、尾藤元子、栗飯原常城、加藤一男、尾藤由、有代喜平、有代信吾、下広茂一、森藤幸、山田昌枝、森数雄、藤沢五郎、日置貞一、下広すゑの、有代いせ

五月二四日

○県本部総会 本会より野田直治、森藤幸、有代信吾、森捨吉、土松新逸の五名出席

五月三〇日
○現地研修会

於奈良国立博物館
仏教美術源流展見学
参加者
高橋義一、高橋明、池田憲三、畑中定夫、小池久江、青木卦二、畑中澄子、野田直治、青木新三、村井正蔵、日置繁、大野隆成、池田弘、清水作衛、小野江選量、畑中浄園、木島観一、木島洋女士松新逸、木島泉、鷺見みし子、田中まささを、鷺見おと、鷺見ゆき、横枕千代子、清水幸江、有代喜平、有代信吾、森藤幸、森捨吉、前田とせ子、藤沢五三郎、山田良、畑中清子、大場賢一、渡辺明、山田久江、蒲百合子、山下ふみ江、美並村より特別参加辻定雄、清水文枝、

六月一五日
○役員会

於センター一四名出席
石徹白見学について、民俗資料調査について
七月二日
○現地研修

石徹白観音堂、威徳寺、中居神社、大杉等見学
参加者
高橋義一、高橋明、小池久江、野田直治、野田茂、青木新三、村井正蔵、日置繁、大野隆成、松井隆、池田弘、清水作衛、小野江選量、坪井真澄、畑中浄園、畑中真澄、土松新逸、木島泉、鷺見おと、鷺見ゆき、田代俊雄

七月一四日
○役員会

於村民センター 一一名出席
民俗資料調査について、収蔵庫建設に関する村当局の措置について
七月七日
○役員会

於村民センター 一六名出席
村当局より村長、議長、教育課長出席
文化財保護に関する村当局の考えを聞く会、現地研修の件
一〇月一六〜一八日

○県本部主催文化財現地研修

韓国の歴史訪問
本会よりの参加者
此島広、森藤幸、若山清、有代信吾、土松新逸
十一月二日
○現地研修

関ヶ原古戦場見学、南濃町円満寺仏像拝観
参加者
高橋義一、高橋明、小池久江、青木卦二、野田直、野田茂、青木新三、日置繁、池田弘、清水作衛、小野江選量、坪井庄市、藤沢五三郎、畑中浄園、畑中真澄、土松新逸、島崎英二、遠藤周一、土松康二、滝日準一、日置貞一、有代喜平、下広すゑの

置貞一、有代喜平、下広すゑの
森藤幸、此島広、山田長次、山田昌枝、山田良、井口一雄、松井直、山田良一、松井京一
一月二九日
○役員会

於村民センター 二二名出席
文化財現地研修について
会報の発行について
指定文化財について
三月四日
○現地研修 美並村
林広院、乗性寺、星宮神社、

熊野神社等見学

参加者
高橋義一、高橋明、池田憲三、小池久江、野田直治、野田茂、日置茂、池田弘、坪井庄市、畑中浄園、畑中真澄、石神堯生、木島観一、土松新逸、木島泉、鷺見おと、清水貞子、清水幸江、加藤一男、尾藤由、有代喜平、有代信吾、下広すゑの、有代いせ、森藤幸、此島広、山田昌枝、井口一雄、佐藤秀夫、松井直、坪井政夫、大場賢一、岩谷ますの

三月二一〜二三日
○県本部主催現地研修
大阪府河内郡叡福寺太子堂、観心寺如意輪観音等見学
本会よりの参加者
有代信吾、大場賢一、木島観一、木島泉、河合俊次、鷺見おと、土松新逸、矢野原幸子
三月二七日
○役員会

於村民センター 九名出席
昭和五四年度事業計画及び収支予算案作成
昭和五四年度総会開催について
三月末日
○会報発行

昭和五四年度
事業計画 (案)

一、会議

○総会の開催 四月二日

○役員会の開催 六、九、一、三の各月

○常任委員会 随時

二、見学及び研修会

○文化財に関する講演会

四月二日

○現地研修(見学)の実施

岐阜県博物館及び関市周辺の

文化財見学 四月下旬

村内文化財(天然記念物)現

地見学 七月上旬

正倉院展見学 一月中旬

村内文化財研修 二月

本部主催研修事業に参加

その他臨時文化財見学

三、

会報発行 B五版六頁 二回各三〇〇部

韓国にて 新逸

幾百年慶州仏国寺釈迦塔の石のはだえに光る朝の陽
はるかなる夢を追いつつ外つ國となりたる土に佇ちて眼をとす

「文化財やまと」第二号 昭和五四年三月三十一日発行

発行者/岐阜県文化財保護協会大和村支部

代表者/野田直治 印刷者/石田百子

昭和53年度会計報告

収入の部		決算額
科	目	
1.	前年度繰越金	5,070
2.	会費	71,250
3.	特別会費	319,500
4.	補助収入	50,000
5.	諸計	8,761
		454,581

支出の部		決算額
科	目	
1.	会議費	25,510
	会費	10,000
	役員会費	15,510
2.	事業費	407,860
	研修費	383,860
	発行費	24,000
3.	需要費	1,680
	負担金	1,500
	消耗品費	180
		435,050

翌年度繰越金
454,581 - 435,050 = 19,531円

昭和54年度予算(案)

収入の部		予算額
科	目	
1.	前年度繰越金	19,531
2.	会費	75,000
3.	特別会費	250,000
4.	補助収入	50,000
5.	諸計	469
		395,000

支出の部		予算額
科	目	
1.	会議費	50,000
	(総会費)	20,000
	(役員会費)	30,000
2.	事業費	330,000
	(研修費)	280,000
	(会報発行費)	50,000
3.	需要費	9,000
	(負担金)	1,500
	(消耗品費)	3,500
	(通信費)	4,000
4.	予備費	6,000
		395,000

文化財保護協会への
入会ご案内

◇岐阜県文化財保護協会大和村支部が発足して三年目をむかえました。会員もすでに一〇〇名に
ならんとしています。この際さら
に多くの方々に会員となつて
いただいて、本支部の発展を期
してゆきたいと思ひます。

◇会員の特典として

●保護協会本部発行の「濃飛の文化財」(年二回)外に特集
として「文化財美濃と飛騨」
をお届けします。

●支部会報「文化財やまと」
(五四年度から年二回発行の
予定)をお届けします。

●本部主催の見学会・講演会・
研究会等に参加できます。

●支部主催の文化財の保護・見
学その他の研究会・講演会・
文化財めぐり等に参加できま
す。

◇会員になるには、年額一、五〇〇
円をそえて、事務所(大和村教
育委員会)または地区の理事へ
申し込んで下さい。

≡ 編集後記 ≡

▽暖冬であつたせいか、気がついたらいつの間にか春になつていた
というような今日この頃です。沈
丁花の香りが古い石垣のかけから
匂ってきます。

▽会報第一号をお届けします。事
業報告にもあるように、本年度も
計画どおり多彩な行事がとどこお
りなく実行され、多くの会員各位
のご参加を得て、実りの多い一カ
年でした。

▽見学記はその当時の思い出を新
たにしてくれるものであり、また
見学した当時の感銘を短歌や俳句
に表現して下さったのも本会報の
内容をより豊かにしてくれました。
寄稿して下さい方々に深謝する
次第です。

▽祖先ののこしてくれた農具とか
衣食住に関係したいわゆる民俗文
化財など、私達の身辺にはなおよ
く残存していると思ひます。

今後は、こうしたものの紹介を
してゆくことも本会報の役目の一
つと考えます。会員各位のこの種
の寄稿をも是非お願いしたいもの
です。(畑中記)